

# 起床時血圧に相関 陽性者は注意必要

## OCHIS調べ◆SASと高血圧症

NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長、大阪大学名誉教授)は18日、睡眠時無呼吸症候群(SAS)と高血圧症の相関性に関する調査をまとめた。SAS陽性者は起床時に血圧が高くなる傾向があり、特に注意する必要があることが明らかになった。

調査は2021年5月から10月にかけてオムロンヘルスケア(荻野勲社長、京都府向日市)と共同で実施。SASスクリーニング検査で陽性となった男性ドライバー10人と、陰性だった11人を対象に行った。

シメーターで3日間計測。睡眠中は就寝後1時間半、2時間半、3時間半の計3回測定し、血圧と酸素飽和度や心拍数の変化、相関性を調べた。

その結果、SAS陽性者は全員、起床時に収縮期(最高)血圧、拡張期(最低)血圧ともに陰性者より高く、高血圧症と診断される基準値を超えた。

OCHISでは「睡眠中の3回分の血圧測定時刻と無呼吸による低酸素とのタイミングの問題で、SASと高血圧との相関を明らかにするまでには至らなかったものの、起床時血圧についてはSASとの相関が認められた。SAS陽性者は、特に起床時高血圧に注意した対応が必要」としている。

(小栗史和)